

ビオトープづくりワークショップの報告

「ビオトープづくりワークショップ」をセンター「いきもののにわ」で実施しました。

開催日時：平成 28 年 3 月 5 日（土）10 時から 12 時

参加者：12 名

センタービオトープ「いきもののにわ」の防水シートが破れて、再整備の必要ができたため、応募された一般参加者をはじめ、ボランティアであるパートナー及び職員を交えてワークショップとして改修作業を実施しました。講師には日本ビオトープ協会関東地区委員長の砂押一成氏をお招きし、ワークショップとしての改修作業、ビオトープに関する講義が行われました。

霞ヶ浦流域は、植物の絶滅危惧種の多い場所です。当センターには、自然界絶滅となってしまったオニバス、ショウロウスゲ、アサザなどの貴重な植物があります。これらの植物を観察できる場として、保存する場として「いきもののにわ」の再整備を行いました。センタービオトープ「いきもののにわ」は、自然な水辺を創出するだけでなく、植物を観察できる場さらには保存する場としての機能が求められています。ビオトープには、いろいろな工法があり、自然を活かして造るものや防水シート等を利用して造るものなどいろいろあります。今回のビオトープづくりの工法は、防水シートを敷いた上に土を入れ、その上に木枠を入れて土留めをするというものでした。

砂押先生の的確な指示によって、スムーズに作業を進めることができました。ワークショップのためにあらかじめ穴は掘ってありましたが、シート張りから土入れ、木枠の枠組み、そして周辺の土入れまで約 1 時間で 1 つの池の作業を終了することができました。砂押先生の経験に基づく的確な指示と、状況に合わせた臨機応変な対応に驚かされました。

最後は、砂押先生から、ビオトープをつくる意義や実際のビオトープづくりの事例を紹介する講義がありました。講義の後の質疑応答では、ビオトープの耐久性やビオトープと外来種の問題など有意義な時間を持つことができました。2 時間という短い時間でしたが、無事ワークショップを終えることができました。

今回は一般参加者やパートナーの皆様の御協力により実施することができました。砂押先生、そして参加者のみなさん、パートナーのみなさん、ありがとうございました。

今後は、まだ残っている作業を職員とパートナーで進めて行きます。完成した「いきもののにわ」は、環境学習やイベントでのビオトープの活用を図っていくこととなります。

ワークショップの一部を御紹介致します。



シートをはり、土を入れる



土を固める



土留め用の木枠を入れる



木枠の高さを調整する



木枠とシート、シートと地面の間に土を入れる



砂押氏がビオトープの意義やこれまでに携わったビオトープについて講義が行われた。